

1 荒川区立図書館案内

(1) 所在案内図

ゆいの森あらかわ（中央図書館）



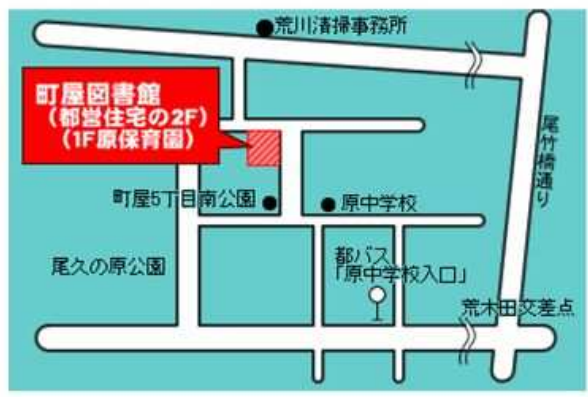
南千住図書館



尾久図書館



町屋図書館



日暮里図書館



汐入図書サービスステーション



冠新道図書サービスステーション

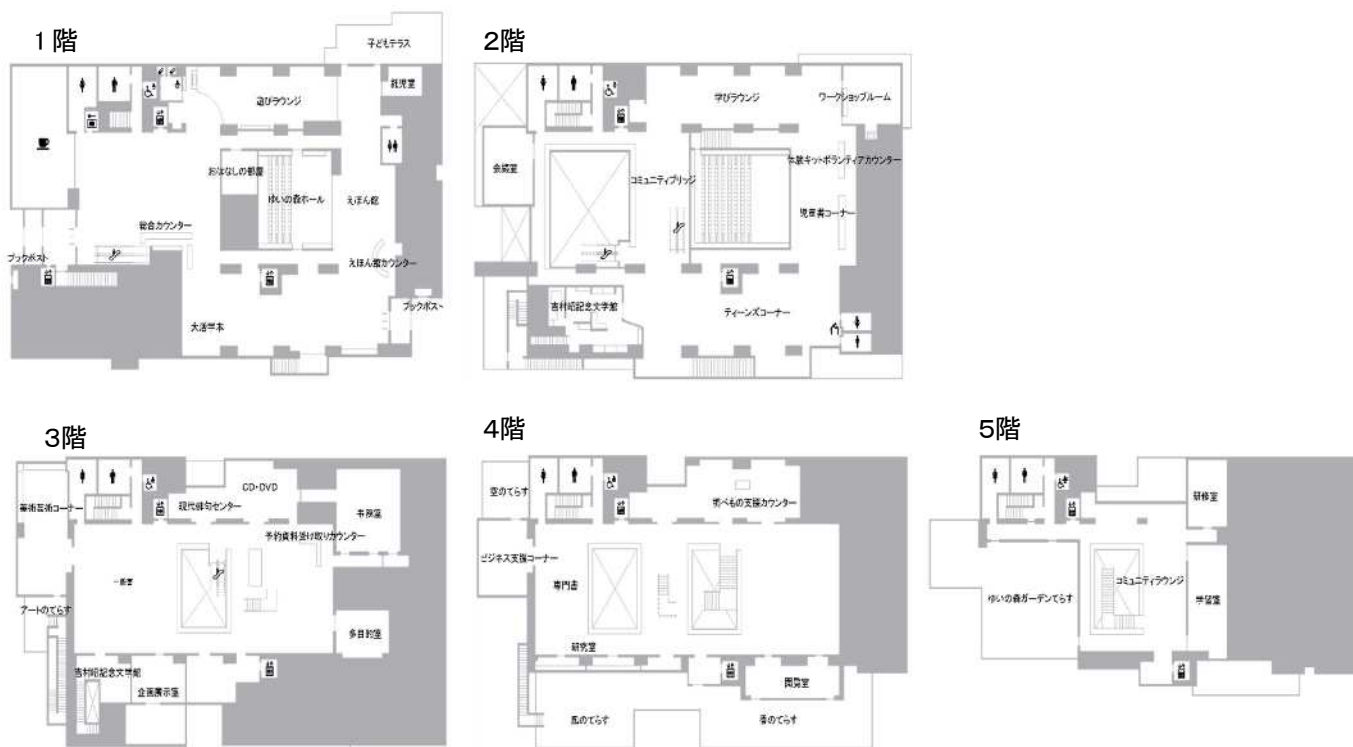


- | | |
|---------------------|---|
| ゆいの森あらかわ
（中央図書館） | 荒川2-50-1
☎ 03-3891-4349 |
| 南千住図書館 | 南千住6-63-1
☎ 03-3807-9221 |
| 尾久図書館 | 東尾久8-45-4
☎ 03-3800-5821 |
| 町屋図書館 | 町屋5-11-18
☎ 03-3892-9821 |
| 日暮里図書館 | 東日暮里6-38-4
☎ 03-3803-1645 |
| 汐入図書サービス
ステーション | 南千住8-12-5-114
べるぼーと汐入東館 1F
☎ 03-3807-8130 |
| 冠新道図書サービス
ステーション | 西日暮里6-25-14
☎ 03-3800-3321 |

(2) 各図書館の施設概要(令和4年3月31日現在)

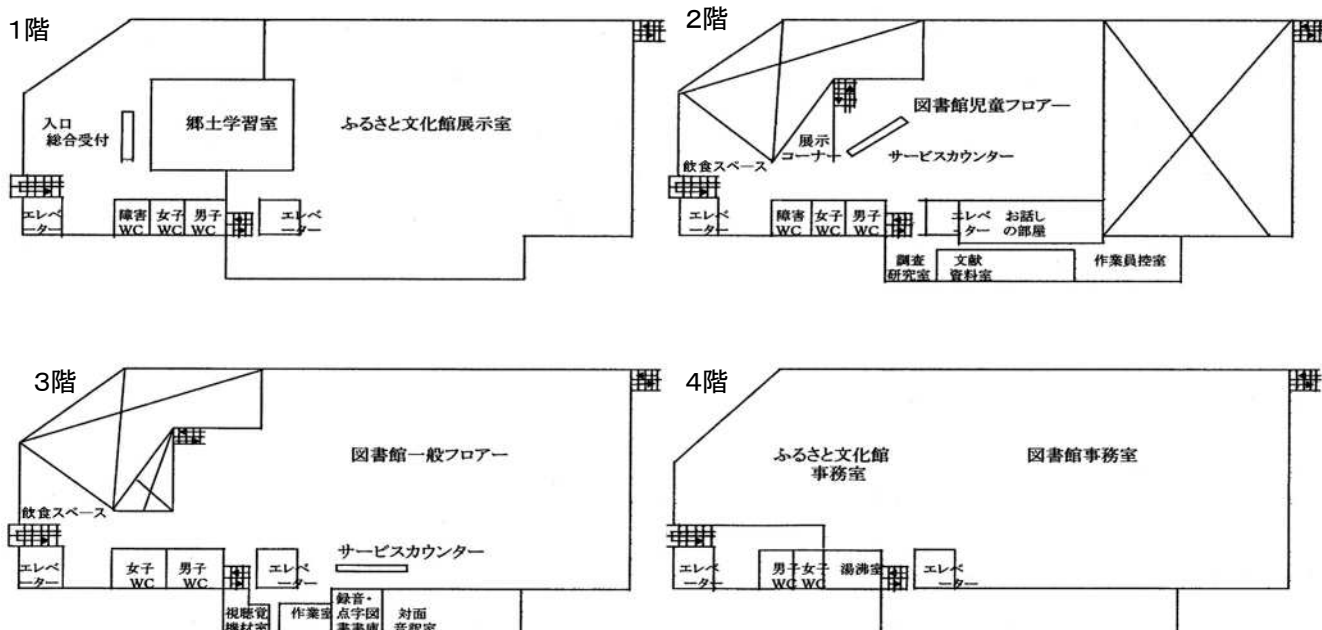
ア ゆいの森あらかわ(中央図書館)

所在地	荒川区荒川2-50-1	電話	03-3891-4349
開設年月日	平成29年3月26日	FAX	03-3891-4350
敷地面積	4, 110. 88㎡	建物	鉄筋コンクリート造 地上5階、地下1階 延床面積10, 943. 74㎡
交通機関	都電荒川線荒川二丁目(ゆいの森あらかわ前)停留場下車徒歩1分 東京メトロ千代田線町屋駅・京成上野線町屋駅下車徒歩8分 コミュニティバス「さくら」ゆいの森あらかわ停留所下車(土・日・祝のみ運行)		
併設	吉村昭記念文学館(2階、3階)、ゆいの森子どもひろば(1階、2階)		
設備	点字ブロック、自動ドア、エレベータ、エスカレータ、バリアフリー、対面音訳室、録音室、ベ이스テーション、託児室、AED、発電機、備蓄倉庫、乳幼児用紙おむつ容器		
座席数	933席(予約が必要な研究席(4階)、学習席(5階)を含む)		
無線LAN	ノートPC4台 ※全館無線LAN(FREE Wi-Fi)		
職員数	84名		
所蔵資料	一般書	284,446 冊	CD 11,898 点
	児童書	69,734 冊	DVD 1,936 点
	地域行政資料	27,927 冊	学校教育用ビデオDVD 110 点
	HS資料	3,971 冊	視聴覚資料計 13,944 点
	雑誌	19,211 誌	
	新聞	48 紙	
	蔵書冊数	405,289 冊	
利用状況	令和3年度個人登録者数	31,994 人	令和3年度入館者数 510,961 人
	令和3年度貸出利用者数	182,970 人	令和3年度総個人貸出点数 738,031 点
特色	約60万冊の蔵書規模を有する区の中央図書館・吉村昭記念文学館・ゆいの森子どもひろばが一体となった、あらゆる世代が活用できる施設です。利用者が自ら学び、体験し、人と人が交流できる、地域の文化やコミュニティの拠点づくりを目指します。また、災害時には、妊産婦や乳児を中心とした避難所として活用できるよう、免震構造を採用し、発電機や備蓄倉庫を備えています。		



イ 南千住図書館

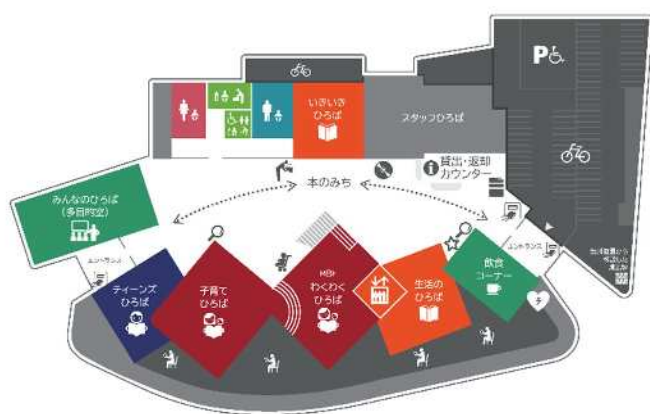
所在地	荒川区南千住6-63-1	電話	03-3807-9221	
開設年月日	平成10年5月1日	FAX	03-3803-7744	
敷地面積	2,723.96㎡	建物	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)地上4階、地下1階、 塔屋のうち2階、3階、4階部分 延床面積2,686.10㎡、建物合計5,270.69㎡ (荒川ふるさと文化館延床面積2,584.59㎡)	
交通機関	JR常磐線南千住駅・東京メトロ日比谷線南千住駅・つくばエクスプレス南千住駅下車徒歩10分 東京メトロ日比谷線三ノ輪駅・都電荒川線三ノ輪橋停留場下車徒歩15分 コミュニティバス「さくら」南千住図書館停留所下車徒歩2分 都バス千住大橋停留所下車徒歩2分 京成上野線千住大橋駅下車徒歩10分			
併設	荒川ふるさと文化館			
設備	点字ブロック、自動ドア、エレベータ、バリアフリートイレ、対面音訳室、防音室、ベビーステーション、飲食スペース、AED			
座席数	146			
無線LAN	ノートPC3台 ※全館無線LAN(FREE Wi-Fi)			
職員数	32名(汐入図書サービスステーション含む)			
所蔵資料	一般書 児童書 地域行政資料 HS資料 雑誌 新聞 蔵書冊数	99,841冊 32,551冊 5,512冊 22冊 7,081冊 11紙 145,007冊	CD カセットテープ ビデオテープ DVD 16ミリフィルム 学校教育用ビデオDVD 視聴覚資料計 映写機	12,766点 1,558点 1,057点 1,820点 934本 50点 18,185点 9台
利用状況	令和3年度個人登録者数 令和3年度貸出利用者数	16,869人 86,572人	令和3年度入館者数 令和3年度総個人貸出点数	194,019人 348,150点
特色	区立図書館の中央館機能をゆいの森あらかわに移管した後も、28万冊の蔵書を収蔵可能な中規模館として運営しています。荒川区の歴史・文化を楽しみながら学び、探究できる荒川ふるさと文化館と共同した取り組みを実施するとともに、「俳句のまち あらかわ」にちなんだ奥の細道に関連するコーナーを設置しています。			



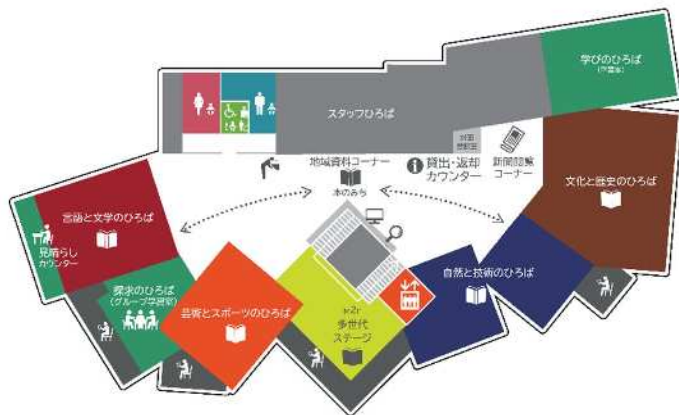
ウ 尾久図書館

所在地	荒川区東尾久8-45-4	電話	03-3800-5821	
開設年月日	令和3年2月20日	FAX	03-3800-5822	
敷地面積	1,728.54㎡	建物	鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造、自転車駐車場:アルミ造 延床面積 2,106.13㎡	
交通機関	都電荒川線宮ノ前停留場下車徒歩2分 日暮里舎人ライナー熊野前駅下車徒歩8分 都バス熊野前停留所下車徒歩8分 都バス小台停留所下車徒歩9分			
併設	なし			
設備	点字ブロック、自動ドア、エレベータ、スロープ、インターホン、触知板、バリアフリートイレ、前広便座、対面音訳室、ベビーステーション、飲食スペース、AED、障がい者専用駐車場、乳幼児用紙おむつ容器			
座席数	300			
無線LAN	ノートPC2台 ※全館無線LAN(FREE Wi-Fi)			
職員数	17名			
所蔵資料	一般書	73,449冊	CD	5,394点
	児童書	25,812冊	視聴覚資料計	5,394点
	地域行政資料	2,022冊		
	HS資料	28冊		
	雑誌	6,931冊		
	新聞	11紙		
	蔵書冊数	108,242冊		
利用状況	令和3年度個人登録者数	10,505人	令和3年度入館者数	215,148人
	令和3年度貸出利用者数	83,481人	令和3年度総個人貸出点数	358,669点
特色	<p>「学ぶ、集う、楽しむ」をテーマに赤ちゃんからご高齢の方まで幅広い世代の方々が快適に利用できる居心地の良い図書館です。</p> <p>公園内にある図書館という魅力を最大限に生かして、館内はまるで自然の中にいるかのような木の温もりを感じられる作りになっています。</p> <p>2階の見晴らしカウンターからは、隅田川方面を一望できるほか、1階と2階のあちこちにテラス席があり、晴れた日には緑に囲まれてゆったりと読書を楽しむことができます。また、長時間滞在利用者のほかにも、公園利用者が気軽に立ち寄れるよう、椅子を300席設けています。</p>			

1階



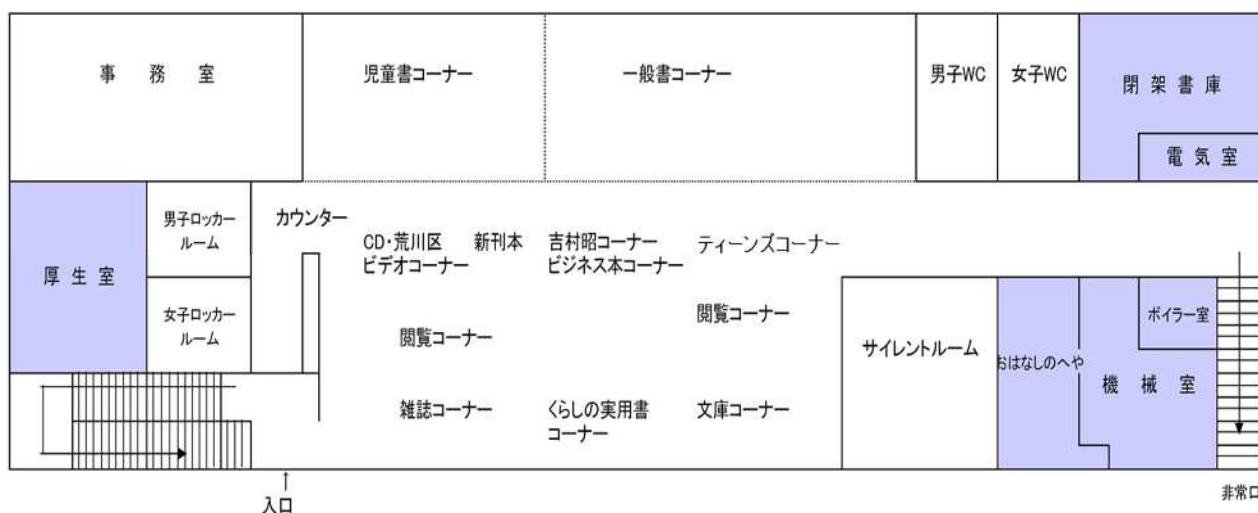
2階



エ 町屋図書館

所在地	荒川区町屋5-11-18	電話	03-3892-9821
開設年月日	昭和51年10月1日	FAX	03-3892-9822
敷地面積	都営住宅敷地内	建物	鉄筋コンクリート3階建内2階部分 延床面積1,045.44㎡
交通機関	東京メトロ千代田線町屋駅・京成本線町屋駅下車徒歩20分 都電荒川線町屋駅前停留場下車徒歩20分 都バス原中学校入口停留所下車徒歩3分		
併設	原保育園、都営住宅		
設備	スロープ、インターホン、車椅子昇降機、ベビーステーション、AED		
座席数	95		
無線LAN	ノートPC2台 ※全館無線LAN(FREE Wi-Fi)		
職員数	14名		
所蔵資料	一般書	82,744 冊	CD 7,636 点
	児童書	26,417 冊	視聴覚資料計 7,636 点
	地域行政資料	1,801 冊	
	HS資料	15 冊	
	雑誌	7,802 冊	
	新聞	12 紙	
	蔵書冊数	118,779 冊	
利用状況	令和3年度個人登録者数	6,284 人	令和3年度入館者数 85,989 人
	令和3年度貸出利用者数	38,397 人	令和3年度総個人貸出点数 151,800 点
特色	都営住宅の2階において開館。階下には原保育園、前には原中学校、隣には公園、近くには隅田川・都立尾久の原公園・東京都立大学健康福祉学部があります。保育園・中学校と連携し、立地を生かした取り組みを進めています。 ワンフロアで明るく、シニア世代を意識した健康関連本、文庫本、環境、日本文学などの図書を所蔵しています。		

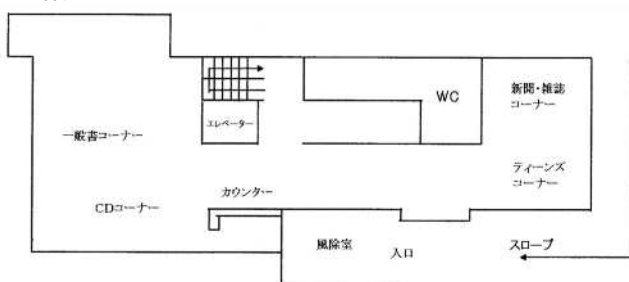
2階



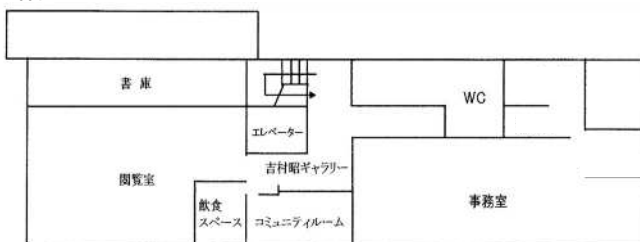
オ 日暮里図書館

所在地	荒川区東日暮里6-38-4	電話	03-3803-1645	
開設年月日	昭和54年6月11日	FAX	03-3803-1646	
敷地面積	893.92㎡	建物	鉄筋コンクリート地上2階地下1階建 延床面積1,369.66㎡	
交通機関	JR 山手線・常磐線・京浜東北線、京成本線、日暮里舎人ライナー 日暮里駅下車徒歩10分 JR 常磐線三河島駅下車徒歩8分 都バス大下停留所下車徒歩7分			
併設	なし			
設備	点字ブロック、自動ドア、エレベータ、スロープ、バリアフリートイレ、ベビーステーション、コミュニケーションルーム、飲食スペース、AED			
座席数	131			
無線LAN	ノートPC2台 ※全館無線LAN(FREE Wi-Fi)			
職員数	21名(冠新道図書サービスステーション含む)			
所蔵資料	一般書	66,001 冊	CD	5,764 点
	児童書	28,088 冊	視聴覚資料計	5,764 点
	地域行政資料	2,496 冊		
	HS資料	10 冊		
	雑誌	6,442 冊		
	新聞	11 紙		
	蔵書冊数	103,037 冊		
利用状況	令和3年度個人登録者数	12,367 人	令和3年度入館者数	175,778 人
	令和3年度貸出利用者数	86,279 人	令和3年度総個人貸出点数	324,751 点
特色	<p>学生や仕事帰りの方によく利用されています。経済、民俗、ハンゲル図書などを多く所蔵しています。2階には、荒川区出身で区民栄誉賞を受賞した作家・吉村昭氏の著作や写真、自筆原稿などを展示した「吉村昭ギャラリー」があります。児童室の窓の外には、日暮里ゆかりの童話「夕やけこやけ」の世界が描かれた壁画があります。平成25年6月には、天皇陛下の行幸を賜り、吉村氏の震災関連の資料展示をご覧いただきました。平成29年度には大規模改修を行い、平成30年4月21日にリニューアルオープンしました。</p>			

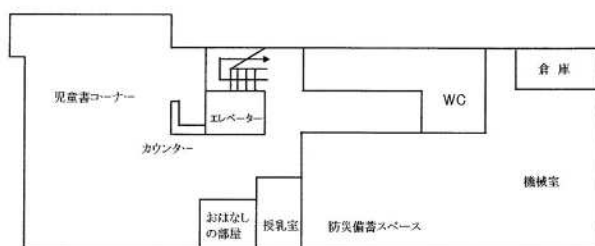
1階



2階

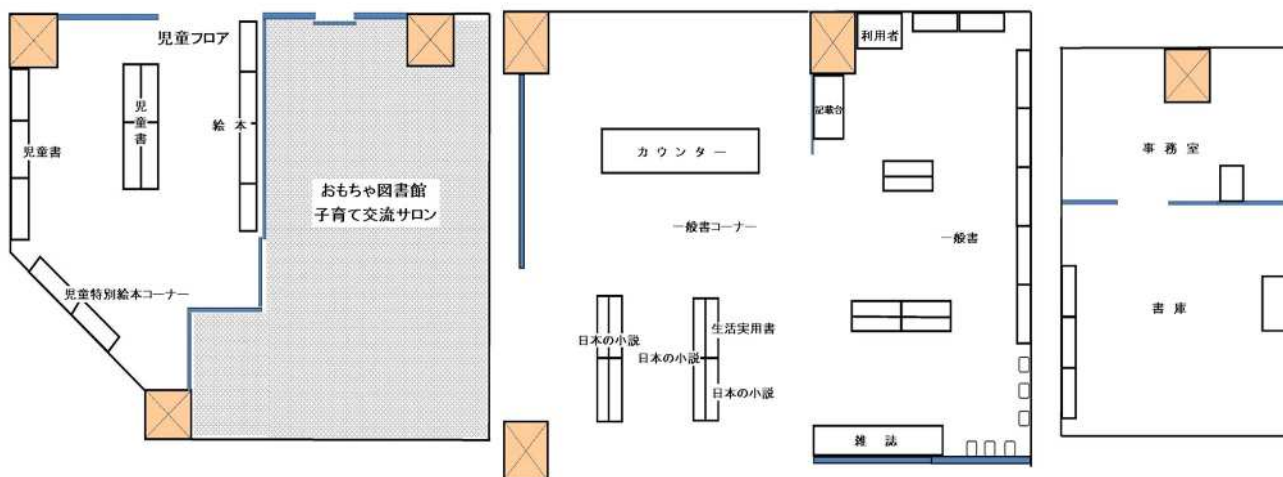


地階



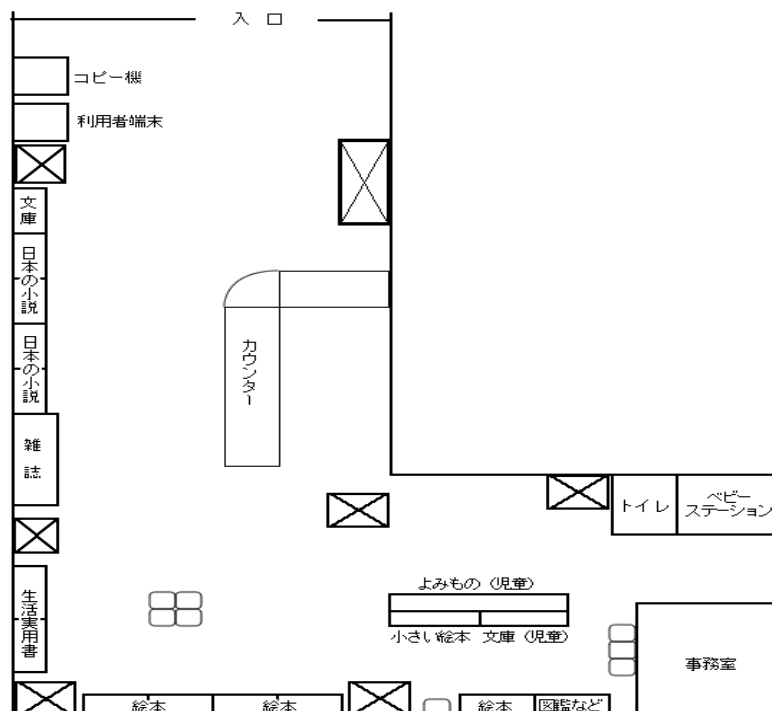
カ 汐入図書サービスステーション

所在地	荒川区南千住8-12-5-114 べるぽーと汐入東館1F		電話	03-3807-8130
開設年月日	平成19年9月8日 (平成22年12月18日拡張) (平成25年10月1日拡充)		FAX	03-3807-8130
			建物	鉄筋コンクリート造地上3階地下1階のうち1階 延床面積124.07㎡ (既存部分68.85㎡、拡張部分25.32㎡、 拡充部分29.90㎡)
敷地面積	べるぽーと汐入東館内			
交通機関	JR常磐線南千住駅・東京メトロ日比谷線南千住駅・つくばエクスプレス南千住駅下車徒歩15分 都バス南千住汐入・はなみずき通り中央停留所下車徒歩2分 京成上野線京成関屋駅・東武伊勢崎線牛田駅下車徒歩10分			
併設	なし			
設備	なし			
座席数	7			
無線LAN	なし			
職員数	南千住図書館に含む			
所蔵資料	一般書	7,157冊	CD	0点
	児童書	5,644冊	視聴覚資料計	0点
	地域行政資料	134冊		
	HS資料	0冊		
	雑誌	405冊		
	新聞	0紙		
	蔵書冊数	13,340冊		
	利用状況	令和3年度個人登録者数	4,390人	令和3年度入館者数
	令和3年度貸出利用者数	55,652人	令和3年度総個人貸出点数	180,747点
特色	<p>南千住図書館から遠い汐入地域の区民に対する図書館サービスの充実と、急増する子育て世代の教育環境の整備のために、べるぽーと汐入商店街振興組合の空き店舗を借りて、南千住図書館の分室として運営しています。</p> <p>絵本や実用書、小説が主体の小規模な分室ですが、区内の図書館の資料を取り寄せ、ここで借りて、ここに返すことができます。拡張した児童フロアは、荒川区社会福祉協議会が運営する「汐入おもちゃ図書館・子育て交流サロン」と隣接しています。</p>			



キ 冠新道図書サービスステーション

所在地	荒川区西日暮里6-25-14	電話	03-3800-3321
開設年月日	平成21年11月14日	FAX	03-3800-3321
敷地面積	マンション兼店舗ビル内	建物	鉄筋コンクリート造地上6階のうち1階 延床面積181.44㎡
交通機関	JR 山手線・京浜東北線西日暮里駅・東京メトロ千代田線西日暮里駅下車徒歩15分 都バス西日暮里六丁目・新三河島停留所下車徒歩2分 京成上野線新三河島駅下車徒歩5分 日暮里舎人ライナー西日暮里駅下車徒歩12分		
併設	なし		
設備	自動ドア、スロープ、バリアフリートイレ、ベビーステーション、AED		
座席数	13		
無線LAN	なし		
職員数	日暮里図書館に含む		
所蔵資料	一般書	5,286 冊	CD 0 点
	児童書	5,299 冊	視聴覚資料計 0 点
	地域行政資料	110 冊	
	HS資料	0 冊	
	雑誌	476 冊	
	新聞	0 紙	
	蔵書冊数	11,171 冊	
利用状況	令和3年度個人登録者数	2,305 人	令和3年度入館者数 56,410 人
	令和3年度貸出利用者数	29,704 人	令和3年度総個人貸出点数 99,033 点
特色	日暮里図書館から遠い西日暮里地域の区民に対する図書館サービスの充実のために、冠新道商興会に面するマンション兼店舗1階の一室を借りて、日暮里図書館の分室として運営しています。 絵本や実用書主体の小規模な分室ですが、区内の図書館の資料を取り寄せ、ここで借りて、ここに返すことができます。ベビーステーションを設置し、子ども連れの利用にも便利なため、多くの親子連れの方にご利用いただいています。		



(3) 図書館施設の充実に向けて

ア 尾久図書館

令和3年2月に開館した尾久図書館は、「学ぶ、集う、楽しむ」をテーマに、赤ちゃんからご高齢の方まで幅広い世代の方々が快適に利用できる居心地の良い図書館です。

公園内にある図書館という魅力を最大限に生かして、館内はまるで自然の中にいるかのような木の温もりを感じられる作りになっています。

館内には全世代が集える「ひろば」を整備し、新しい本や様々な人と出会う「世代間の交流」を推進します。賑やかな図書館としてざわめきを許容し、読み聞かせや声を出しながら読書を楽しむことができる、だれもが気兼ねなく利用できる図書館です。

○コンセプト

- ・公園内という立地を生かし、「学ぶ、集う、楽しむ」をテーマに赤ちゃんから高齢者までのあらゆる世代が、快適に利用できる図書館
- ・地域社会の発展の基礎を形成する生涯学習や地域交流の場として、区民が心豊かで実りある人生を送ることができる地域住民の新たな文化振興拠点

○主な特徴

- ・四季折々の花々を眺めながら読書のできる「テラス席」や館内からも公園北側のローズガーデンを一望できる「見晴らしカウンター」を設け、お気に入りの席で読書を楽しむことができます。
- ・散歩途中でもふらっと立ち寄っていただけるように出入口を2か所設け、館内を通り抜けることも可能です。
- ・公園利用者もゆっくり休憩いただける「飲食スペース」を設置しています。
- ・明るく開放感あふれる吹き抜けの中2階には雑誌やコミック、大人向けの絵本を配置しています。

(1)気軽に利用できる身近な図書館

- ・親子で読み聞かせや手遊びができるおはなしコーナーを設置
- ・座席が300席あり、バラエティに富んだイスを配置
- ・赤ちゃんから高齢者まで快適に過ごすことができる空調(輻射式冷暖房)を導入
- ・飲食スペースに売店を設置

(2)交流の拠点

- ・自然観察会等、公園と連携したイベントができる多目的室を設置
- ・グループ学習室を設置
- ・生涯学習活動やボランティア活動の拠点

(3)バリアフリー

- ・バリアフリースイレを充実
- ・障がい者専用駐車場を設置
- ・対面音訳室を設置



おはなしコーナー



多世代ステージ



テラス

隣接している宮前公園は、西尾久と東尾久に位置する都市計画公園で、令和4年4月に完成しました。宮前公園は、四季折々の草花が数多く咲いているエリアのほか、防災公園としての性格を持つ広大な天然芝生の多目的広場があります。また、保育園やテニスコートも併せて整備されています。

イ ゆいの森あらかわ

平成29年3月26日に開館したゆいの森あらかわは、中央図書館・吉村昭記念文学館・ゆいの森子どもひろばが、一体となった、あらゆる世代が活用できる施設です。利用者が自ら学び、体験し、人と人とが交流できる、地域の文化やコミュニティの拠点づくりを目指します。

○中央図書館機能

区の中央図書館と位置づけられる図書館は、約60万冊の蔵書規模の書架や900席を超える座席を備え、全ての世代の読書活動や課題解決の支援と、地域文化の情報発信の拠点とします。

- 様々な課題解決を支援するレファレンスカウンターやビジネス支援コーナー、時事に沿った特集コーナー等の設置
- 赤ちゃんから高齢者までだれもが楽しめるえほん館
- 緑陰読書ができる屋外テラス席や会話を楽しめるグループ席などの座席

○吉村昭記念文学館機能

荒川区出身で「戦艦武蔵」や「三陸海岸大津波」、「ポーツマスの旗」などで著名な小説家、吉村昭氏(昭和2年～平成18年)を紹介する吉村昭記念文学館は、吉村文学の魅力を広く発信し、その精神を次代へと引き継ぐこと、また、吉村文学をきっかけとして区の文化の更なる振興へとつなげる場を目指しています。

- ・小説家として活躍した吉村氏の生涯と作品を中心に紹介するほか、主な作品の舞台や取材地、作品に描かれたふるさと荒川区、妻であり作家の津村節子氏の文学世界等を紹介
- ・吉村氏の書斎を再現し、作品執筆の臨場感を演出
- ・紹介映像等の閲覧、展示解説等の実施
- ・企画展示室は、館全体の展示等のスペースとしても活用

○ゆいの森子どもひろば機能

乳幼児向けの遊び場と小・中学生の居場所を中心に、子育て世代のコミュニティの場の提供や科学実験やワークショップ等を通じて子どもたちの夢や生きる力を育みます。

- ・「体験キット」や「ワークショップ」等で、遊びから学びへとつなげる多様な体験事業を小学生に提供
(体験事業例: 星空学習、環境学習、科学実験)
- ・親子で利用できる乳幼児向けの室内遊び場や小中学生の安全な居場所を提供
- ・ゆいの森あらかわ利用者を対象に、乳幼児一時預かり(時間単位)を実施

○防災機能

災害時に妊産婦や乳児を中心とした避難所として活用します。

- ・乳児等の避難所対応に必要な備蓄品のほか発電機を準備
- ・平常時から避難訓練、避難所開設訓練等を実施
- ・発災直後からこころのケア等、様々な課題に沿った本の提供体制を準備

○その他の機能

利便性の向上のため、その他様々なサービスを実施します。

- ・館内の本を持って入れるカフェ
- ・館内の全てのフロアに無線LANを完備
- ・インターネットで学習席やイベントを簡単予約
- ・新聞記事が検索できるデータベースの提供
- ・自動貸出機や読書履歴印刷機の設置

○令和3年度のイベント

- ・ゆいの森ホール(ゆいの森あらかわ主催・共催)

7月6、8、11日 吉村昭関連映像上映会

「新テレビ私の履歴書 吉村昭」、「青春の昭和史① 遠い日の戦争」

8月1日 人形劇観劇会「おむすびころりん」

7日 ゆいの森スペシャルおはなし会 0～3歳

7日 ゆいの森スペシャルおはなし会 4歳～未就学児

10月31日 上映会「村田朋泰 人形アニメーションの世界」

11月7日 おしどり文学館協定イベント「朗読会(津田寛治氏)」※中継映像上映

12月26日 お正月遊び「百人一首大会」

1月4日 新春イベント～日本舞踊ショー～

5日 お正月遊び「福笑い・立体すごろく」

16日 星空教室「冬の星座」

3月5日 吉村司氏講演会「父・吉村昭の好きな・・・」

・1階遊びラウンジ・おはなしの部屋等(子育て世代向け)

ゆいの森あらかわ1階遊びラウンジでは、未就学児とその保護者を対象に月1回程度「親子あそびタイム」を開催しています。また、年5回程度、遊びタイムを発展させ、より多彩なプログラムで親子の触れ合いを充実させる「なかよしタイム」を開催しています。また、1階おはなしの部屋では、毎週水曜日、職員とボランティアによる「おはなし会」を開催しています。さらに、子育て世代の育児を支援するため、不定期で子育て講座を実施しています。

- 7月16日 遊びタイム「エプロンシアター「食いしん坊ゴリラ」
- 9月17日 遊びタイム「親子ふれあい遊び」
- 10月22日 遊びタイム「親子ふれあい遊び」
- 11月 5日 なかよしタイム「親子で手作りおもちゃ～牛乳パックを使って都電を作ろう～」
- 11月19日 遊びタイム「パネルシアター「シャボン玉」・親子ふれあい遊び」
- 12月 7日 遊びタイム「親子ふれあい遊び」
- 12月10日 なかよしタイム「手形・足形スタンプで作るクリスマスオーナメントづくり」
- 12月21日 遊びタイム「パネルシアター「けんちゃんの大冒険」
- 1月14日 遊びタイム「わらべうた」
- 1月18日 遊びタイム「親子ふれあい遊び」

・2階ワークショップルーム、学びラウンジ等(小中学生向け)

ゆいの森あらかわでは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、消毒等の安全対策を徹底することで一部の期間を除き、遊び感覚で学べる体験キットの貸し出しやワークショップを継続しました。また、吉村昭記念文学館と連携したワークショップを実施しました。

- 7月24日 夏の星座の話
- 7月25日 夏の星座の話
- 7月28日 体験ワークショップ「お弁当をつくろう」
- 8月 4日 岩石と鉱物を観察してみよう
- 8月12日 プログラミングワークショップ(午前)
- 8月12日 プログラミングワークショップ(午後)
- 8月16日 レモン電池をつくってみよう
- 8月17日 プログラミングワークショップ(午前)
- 8月17日 プログラミングワークショップ(午後)
- 8月20日 SDGs ワークショップ「コサージュを作ろう」
- 8月23日 体験ワークショップ「お弁当をつくろう」
- 8月29日 SDGs ワークショップ「エコバッグを作ろう」
- 9月 1日 体験ワークショップ「光の不思議」
- 9月12日 秋の星座と中秋の名月
- 9月23日 コオロギトラップを作って秋の虫を観察しよう
- 10月16日 SDGs ワークショップ「アップサイクルな小物入れを作ろう」
- 10月17日 どんぐりおもちゃをつくろう(どんぐりと木の実の話)
- 10月24日 チリメンモンスターを探そう
- 11月 3日 学びラウンジフェス
- 11月 6日 手作り望遠鏡で星を探そう
- 11月 7日 どんぐり小物をつくろう
- 11月19日 月食を観測しよう
- 11月20日 親子で学ぼう～地震&津波～
- 11月24日 親子で学ぼう～地震&津波～
- 12月11日 クリスマスリースをつくろう
- 12月19日 聖夜の星を観察しよう

- 12月25日 門松の制作・飾り付け(成人講座)
- 12月26日 お正月遊び「百人一首大会」
- 1月5日 お正月遊び「福笑い・立体すごろく」
- 1月5日 お正月遊び「羽子板の制作・羽根つき」
- 1月16日 冬の星座
- 3月21日 学びラウンジフェス
- 3月30日 影絵と光のワークショップ

○令和3年度体験キット貸出件数 (単位:件)

体験キットの種類		貸出件数	体験キットの種類		貸出件数
1	明かりを灯そう	—	17	鏡の不思議	33
2	磁石に触れよう	94	18	熟語と対義語を組み合わせよう	2
3	色を作ろう	53	19	原子と分子の世界を冒険しよう	11
4	歯車を回そう	331	20	てことギアのしくみを知ろう	147
5	静電気を作ろう	173	21	ゲームで遊ぶ世界地図	26
6	空気の力を知ろう	372	22	地球の内部をのぞいてみよう	108
7	こまをまわそう	347	23	光のふしぎ	187
8	植物を観察しよう	141	24	大気圧を感じてみよう	166
9	昔の文字であそぼう	—	25	バランスで遊ぼう	399
10	錯覚を体験しよう	31	26	ものの重さをはかってみよう	79
11	お弁当をつくろう	533	27	電気回路で遊ぼう	—
12	荒川区を見てみよう	—	28	パズルで学ぶ都道府県	152
13	図形を作ってみよう	39	29	恐竜を知ろう	2
14	幾何学模様を描こう	539	30	石のふしぎを見てみよう	2
15	パズルに挑戦しよう	435	31	ミクロの世界をのぞいてみよう	—
16	文字を組み合わせよう	15	合 計		4417

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための利用制限等により、令和3年4月26日から5月11日まで貸し出しを休止しました。また、消毒等の取り扱いの難しいキットについては貸し出しを休止しました。

○園芸ボランティア

これまで実施してきた成人向けの「園芸一般講座」に加え、新たに「園芸ボランティア親子講座」を実施し、あいさつ広場でのバラ花壇や各階テラス花壇の整備、プランターによる季節の花の栽培等を行いました。

- 6月26日 園芸ボランティア親子講座(午前)・一般講座(午後) (第1回)
- 8月7日 園芸ボランティア親子講座(午前)・一般講座(午後) (第2回)
- 10月16日 園芸ボランティア親子講座(午前)・一般講座(午後) (第3回)
- 3月12日 園芸ボランティア親子講座(午前)・一般講座(午後) (第4回)

○令和3年度の企画展示

ゆいの森あらかわ3階企画展示室では、さまざまな展示を行いました。

- ・吉村昭と東日本大震災～未来～伝えたい、災害の記録と人びとの声～(10月16日～12月15日)
- ・吉村昭没後15年 私の好きな……(令和4年1月21日～3月21日)

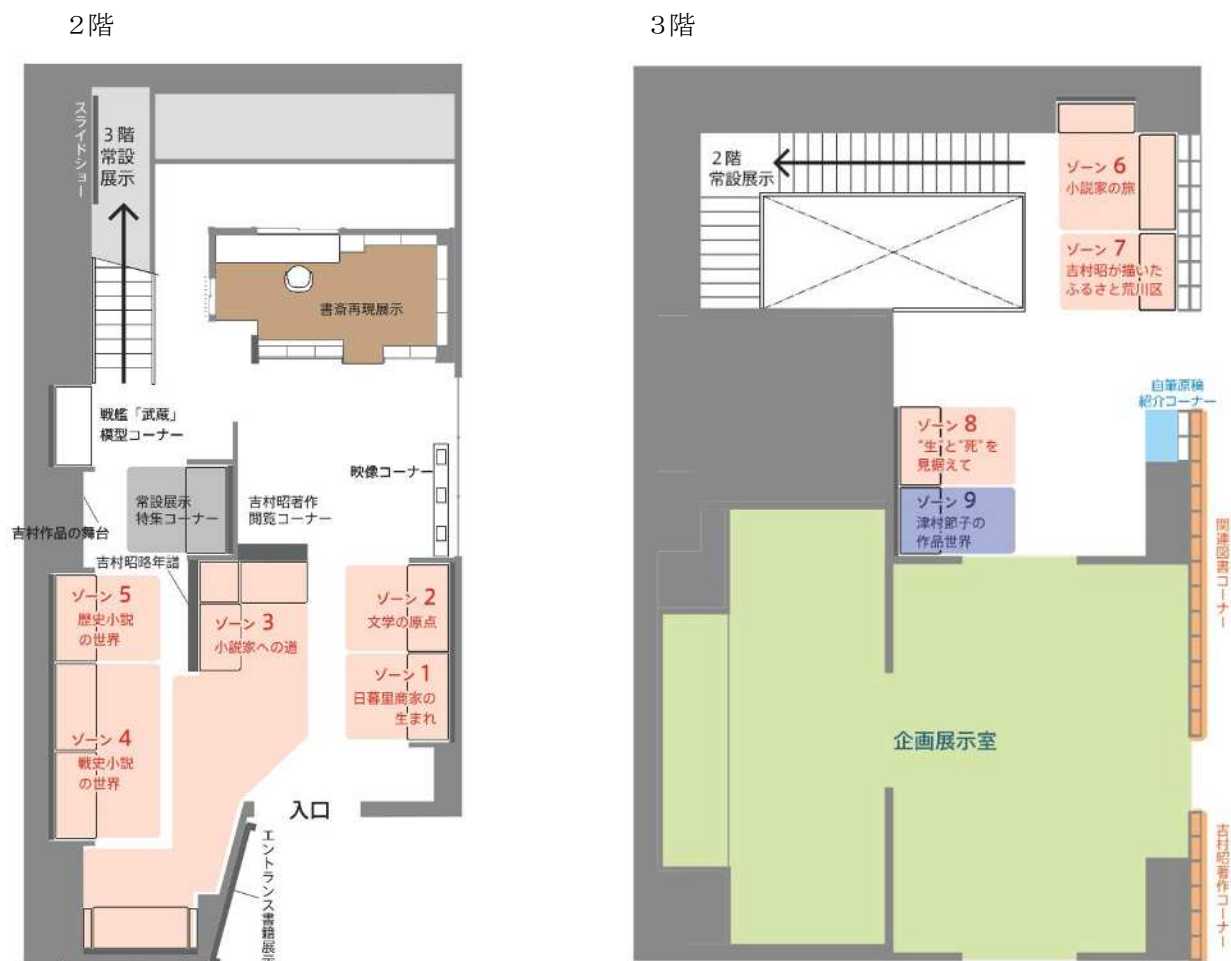
ウ 吉村昭記念文学館

吉村昭記念文学館は、吉村昭(昭和2年～平成18年)の功績を顕彰し、吉村文学を契機として幅広い文化領域と連携し、区の文化のさらなる振興へ寄与することを目指しています。

○吉村昭記念文学館の目的

- 吉村昭の功績を顕彰し、その作品世界を研究する
吉村文学に関する研究拠点として、関連資料の収集・保存・公開をはじめとする様々な活動を展開することにより、吉村の作品が、広く、末永く、読み継がれることに貢献します。
- 吉村文学に親しみ、文学を通して心を育む場を作る
様々なテーマを持つ吉村文学に親しむとともに、吉村文学を契機として更に広範な文学に親しみ、心を豊かにし、知的好奇心を満足させることができる空間を提供します。
- 吉村文学を契機として、幅広い文化領域と連携し、荒川区における文化の醸成を図る
吉村文学を核として、広範な文化領域とも連携した事業を展開し、区民の文化活動の活性化と荒川区における文化の醸成に寄与します。
- 吉村文学を育んだ荒川区の魅力を内外に発信する
日本各地はもとより海外にも及ぶ吉村文学の舞台。これらの地域や周辺地域と交流、連携を図りながら、小説家、吉村昭の功績とその作品世界、そして、吉村氏を育んだ荒川区の魅力を内外に紹介します。

○フロアマップ



○常設展示

・展示ゾーン

荒川区出身の小説家、吉村昭の生涯とその作品をさまざまな資料とともに紹介します。

吉村は、昭和2年5月1日、東京府北豊島郡日暮里町大字谷中本(現東京都荒川区東日暮里六丁目)に生まれました。そして、昭和20年4月13日の空襲で家が焼失するまでの18年間で荒川区で過ごしました。幼少の頃から、家族の死や戦争、そして、自らも死の危険を伴う肋骨切除の手術を経験します。時代が大きく変化する中で、こうした体験は、若い吉村の脳裏に深く刻み込まれ、小説家を志す動機となりました。

吉村は、「死とはなにか、生とはなにか」を主題に人間の本質を探究し、数多くの短篇・長篇の作品を執筆しました。常設展示では、自筆原稿、ノート、書簡、初出誌、著作、写真、愛用品などにより、吉村の作品世界や創作背景を紐解きます。



エントランス



常設展示室

・書齋再現展示

吉村が昭和53年から亡くなる平成18年まで使用していた書齋を再現展示しています。書棚にある書籍は、吉村が生前に使っていたものをほぼそのままの配置で展示しています。



・映像コーナー

荒川区では、平成25年度から4か年に分けて、津村節子氏や吉村と親交があった編集者、作家、取材先で出会った方々を対象にインタビューを行い、証言映像として記録してきました。また、令和元年度は、「吉村昭と俳句」をテーマに新たな証言映像を作成しました。このコーナーでは、証言映像のほか、作品や人柄を紹介した映像など、全11作品をご自由に視聴できます。

No.	分類	映像タイトル	時間
1	吉村昭とは	作家 吉村昭の生涯	3:02
2		人間の「生」を見つめて① 短篇小说と長篇小説	3:18
3		人間の「生」を見つめて② 吉村昭の随筆	2:49
4		吉村昭と津村節子	3:16
5	紹介映像	吉村昭とふるさと「あらかわ」	14:26
6	証言映像	奥深い歴史を紐解く～吉村昭と長崎～	14:54
7		北へ注がれる視線～吉村昭と北海道～	15:03
8		証言 作家 吉村昭	11:53
9		編集者が語る 吉村昭の作品世界	13:02
10		瀬戸内寂聴・津村節子 吉村昭を語る	17:07
11		貫きしことに悔いなし～吉村昭と俳句～	17:19

・吉村昭著作閲覧コーナー

このコーナーでは、吉村の著作や当館の刊行物を閲覧できます。なお、図書の貸出は、3階「吉村昭著作・関連図書コーナー」をご利用ください。

○おしどり文学館協定事業

吉村昭記念文学館は、福井県ふるさと文学館と平成29年11月5日に、「おしどり文学館協定」を締結しました。作家夫婦に関する文学館同士の連携協定としては全国で初めてのものとなります。締結4年目となる令和3年度は、合同展示を行うとともに、朗読会を同時開催（福井県で朗読会を実施、荒川区でライブ映像上映）しました。また、両館でおしどり文学館グッズを作成し、イベント参加者へ記念品として配布しました。

・展 示 【荒川区】 津村節子「花がたみ」―越前和紙の魅力―(9月17日～12月15日)

【福井県】 吉村昭と天狗党 (10月1日～12月22日)

・イベント おしどり文学館協定記念朗読会 津田寛治「天狗争乱」を読む(11月7日)

※福井県で朗読会を実施、荒川区でライブ映像上映

・グッズ 【荒川区】 マスクケース(越前和紙)

【福井県】 メモ帳(「天狗争乱」自筆原稿)

○企画展

その時期に周年を迎えるテーマなど、幅広い世代が関心を持つテーマを設定し、企画展示室やWEBサイトで展示を行っています。

・吉村昭と東日本大震災～未来へ伝えたい、災害の記録と人びとの声～(10月16日～12月15日)

・吉村昭没後15年 私の好きな……(令和4年1月21日～3月21日)

○トピック展

「担当学芸員一押し」として、常設展示で紹介していない資料をより掘り下げたテーマで紹介しています。

・第13回 新収蔵資料展 ―自筆原稿大公開― (3月19日～6月16日)

・第14回 吉村昭と太宰治賞～55年前の出発点～ (6月18日～9月15日)

・第15回 津村節子「花がたみ」―越前和紙の魅力― (9月17日～12月15日)

・第16回 残されたシナリオ―未完・熊井啓監督版「破獄」を中心に― (12月17日～3月16日)

・第17回 吉村昭と大黒屋光太夫～新資料から描いた漂流民～ (3月18日～6月15日)

○自筆原稿紹介コーナー展示

常設展示室 3 階の自筆原稿紹介コーナーで、吉村・津村両氏の自筆原稿等を紹介しました。

- | | | |
|-----------|-----------|-----------------|
| ・吉村昭自筆原稿 | 「暁の旅人」 | (4月16日～5月19日) |
| ・津村節子自筆原稿 | 「星祭りの町」 | (5月21日～6月16日) |
| ・吉村昭自筆原稿 | 「遠い日の戦争」 | (6月18日～8月18日) |
| ・吉村昭自筆原稿 | 「生麦事件」 | (8月20日～9月15日) |
| ・吉村昭自筆原稿 | 「ポーツマスの旗」 | (9月17日～10月20日) |
| ・津村節子自筆原稿 | 「瑠璃色の石」 | (10月22日～11月17日) |
| ・吉村昭自筆原稿 | 「動く壁」 | (11月19日～12月15日) |
| ・吉村昭自筆原稿 | 「落日の宴」 | (12月17日～1月19日) |
| ・吉村昭自筆原稿 | 「海猫」 | (1月21日～2月16日) |
| ・吉村昭自筆原稿 | 「山茶花」 | (2月19日～3月16日) |
| ・吉村昭自筆原稿 | 「桜田門外ノ変」 | (3月18日～4月20日) |

○特集コーナー

全国文学館協議会第10回共同展示「3.11文学館からのメッセージ」に参加し、特集コーナーにおいて、「吉村昭が記した災害―「闇を裂く道」北伊豆地震と関東大震災―」(令和4年3月1日～4月20日)の展示を行い、自筆資料や、丹那断層と北伊豆地震に関する吉村昭の座談会記事などを展示しました。

○講演会

「父・吉村昭の好きな……」(令和4年3月5日)

企画展「吉村昭没後15年 私の好きな……」関連イベントとして、吉村昭氏のご長男・吉村司氏をお招きし、吉村昭氏の愛用品、食、酒、旅にまつわるエピソードなど、氏の素顔についてお話いただきました。

○朗読とトーク

「朗読とトーク～赤江珠緒が読む、吉村昭～」(10月21日～常時配信)

吉村作品を愛読する赤江珠緒氏(フリーアナウンサー)をお招きし、企画展「吉村昭と東日本大震災～未来へ伝えたい、災害の記録と人びとの声～」に関連した吉村作品の朗読と災害や防災についてのトークの番組(57分)を制作し、荒川ケーブルテレビ、Youtube 荒川公式チャンネルで配信しました。

○カードラリー

・吉村昭カードラリー(企画展①) 10月22日～11月17日

・吉村昭カードラリー(企画展②) 令和4年1月21日～2月16日

それぞれの企画展にちなんだ吉村氏のエピソードと、防災レシピやゆかりの地などを特集したカードを集めるカードラリーを開催しました。ゆいの森あらかわ全体を回り、5枚集めた方にはグッズをプレゼントしました。

○上映会

・吉村昭関連映像上映会(7月6日、8日、11日)

(第1部:私の履歴書、第2部:テレビ朝日ドラマ「遠い日の戦争」)

・企画展「吉村昭と東日本大震災」関連イベント「村田朋泰 ～人形アニメーションの世界～」(10月31日)

○常設展示(企画展示)解説

学芸員による常設展示解説を行いました。(月2回実施)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月～7月、1月～3月は休止

○刊行物作成

・令和3年度企画展図録「吉村昭と東日本大震災～未来へ伝えたい、災害の記録と人びとの声～」

・令和3年度企画展図録「吉村昭没後15年 私の好きな……」

・吉村昭記念文学館ニュース「万年筆の旅」Vol. 17(令和3年10月)

・吉村昭記念文学館ニュース「万年筆の旅」Vol. 18(令和4年3月)

○吉村昭記念文学館友の会

荒川区では、「吉村昭記念文学館」の情報を全国に広く発信していくとともに、この文学館が、全国の皆様から吉村文学の真髄に触れることのできる場として親しまれ、地域文化の醸成に貢献する施設となるようご支援いただくことを目的として、「吉村昭記念文学館友の会」を設立し、会員を募集しています。

会員期間は、毎年度更新制とし、年度の末日(3月31日)までが会員期間となります。ただし、個人会員(3年)は入会日の2年後の年度末までとなります。

会費 個人会員(1年) 1,000円 個人会員(3年) 2,500円 法人会員 3,000円
賛助会員 1口 2,000円より

※賛助会員は、友の会の趣旨に賛同し、寄附により活動を支援していただける個人・法人の方を対象。賛助会費は、文学館の運営費として活用いたします。

○吉村昭記念文学館友の会会員数 (令和4年3月31日現在)

	個人会員・法人会員	賛助会員	合計
会員数	441	29	470

○友の会会員限定イベント

文学散歩 in あらかわ 担当編集者とめぐる『彰義隊』舞台地ツアー(令和4年3月20日)

吉村昭著『彰義隊』担当編集者の牧村健一郎氏にお話を伺いながら、荒川区内を中心に、『彰義隊』の舞台地を巡りました。また、円通寺では、荒川ふるさと文化館学芸員による解説を行いました。

吉村昭記念文学館友の会設立趣意書

荒川区出身の作家・吉村昭氏は、徹底した取材と情感を抑えた文体による作品を数多く執筆し、「戦艦武蔵」や「三陸海岸大津波」などの記録文学、そして、「ポーツマスの旗」や「彰義隊」などの歴史文学の分野で我が国の文壇に確固たる地位を築きました。

吉村氏は、多感な時期を過ごした“ふるさと”である荒川区に対する強い思いを持ち続け、随筆や小説にその思いを度々記しています。

荒川区では、吉村氏の功績を後世に伝え、吉村文学を通して真実を見極める眼差しを学び、より多くの方々が文学に親しむとともに、荒川区を知り、郷土愛を育める場として、(仮称)吉村昭記念文学館の検討を重ねておりました。

この度、この文学館の設置目的を十分に満たし、さらに、図書館のような施設との併設を強く望んでおられた吉村氏の御遺志を尊重し、荒川二丁目に整備する複合施設に、平成29年春、文学館を開設することとなりました。

この施設は、全ての世代が活用できる図書館と、未来を託す子どもたちの施設と文学館が融合することにより、これまでの文学館の事業だけでなく、新しい事業の展開を目指しています。

私たちは、この文学館が全国の皆様から吉村文学の真髄に触れることのできる場として親しまれ、地域の文化の醸成に貢献する施設となることを支援するため、「吉村昭記念文学館友の会」を設立します。

平成27年 3月 7日

発 起 人

西川 太一郎 (特別区長会会長・荒川区長) 瀬戸内 寂庵 (作 家)

山崎 穎 (跡見学園理事長) 逢坂 剛 (作 家)

エ 地域における読書環境の拡充

○図書サービスステーション

近くに図書館が無く、図書館サービスが十分行き届きにくいと思われる地域でのサービスを充実するため、現在、2箇所の図書サービスステーションを設置しています。

図書サービスステーションでは、区立図書館に所蔵しているすべての図書・雑誌・CD等の資料を借りたり、返したりすることができます。開館時間は、9時30分から19時30分まで、土曜日・日曜・祝日は9時30分から17時までです。休館日は、月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日以降の平日)、年末年始、月1回の館内整理日です。

汐入図書サービスステーションは、南千住図書館の分室として、平成19年9月8日にべるぽーと汐入東館内に開設しました。この施設は、子育て世代を中心に人口が急増している汐入地域に位置し、利用者数が非常に多いことから、平成22年12月18日にフロアを拡張するとともに、蔵書の追加を行いました。また、同日付けで、荒川区社会福祉協議会が運営する「汐入おもちゃ図書館子育て交流サロン」が隣接して開設されました。

平成25年10月1日には書架を増設し、文庫本や実用書、育児書などを中心に2,500冊程度蔵書を増やしました。

冠新道図書サービスステーションは、日暮里図書館の分室として、平成21年11月14日に冠新道商興会の一角に開設しました。

○令和2年度及び令和3年度 図書サービスステーション利用状況

		合計実績		一日当たり実績	
		令和2年度※	令和3年度	令和2年度※	令和3年度
汐入	登録者数(人)	4,048	4,390	16	15
	入館者数(人)※	92,163	107,145	364	364
	貸出利用者数(人)	45,650	55,652	180	189
	個人貸出点数(点)	144,324	180,747	570	615
	図書蔵書冊数(冊)	13,519	13,340		
冠新道	登録者数(人)	2,116	2,305	8	8
	入館者数(人)※	53,062	56,410	210	192
	貸出利用者数(人)	27,121	29,704	107	101
	個人貸出点数(点)	92,761	99,033	367	337
	図書蔵書冊数(冊)	11,468	11,171		

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年4月8日～5月29日は休館、5月30日～6月18日までは予約本受取りのみ対応

※令和3年1月13日～3月31日は開館時間を19時まで短縮して開館

○あらかわ街なか図書館

荒川区では、平成30年5月27日、「読書を愛するまち・あらかわ」宣言を行い、「本が身近にあるまちづくり」を積極的に進めています。

「あらかわ街なか図書館」は、区や民間の施設に本棚と書籍を設置し、区民の誰もが、いつでも、身近に本に触れられる場を提供するものです。

平成30年6月から、荒川区役所、ふれあい館等の公共施設や、病院、飲食店等の民間施設に設置を進め、あわせて60か所(令和4年4月1日現在)に設置しています。



尾久図書館 特設コーナー



荒川区役所国保年金課